

■仙石秀久 武將。小諸藩初代藩主。秀吉の家臣で、国持大名に出世するも転落、自ら復活を演じ、徳川幕府で特別扱いに。

せんごくひでひさ
大友布教許可1552＝

美濃国加茂郡黒岩村で、斎藤氏に仕える土豪仙石治兵衛久盛の四男に生まれる(1551年説も)。

家督を継ぐ可能性が低いことから、越前国の豪族萩原国満の養子に出されるが、

美濃国内で尾張国の織田信長に付くか、美濃国を治める斎藤龍興に付くのかで、各土豪が割れるなか、

川中島最激戦1561＝9歳：

信長に味方することになり、龍興派だった嫡男久勝を廃嫡、二、三男も相次いで倒れていたことから、

大村純忠受洗1563＝11歳：

急遽、仙石家に呼び戻されて、家督を継ぎ、

岐阜楽市楽座1567＝15歳：

龍興の居城稲葉山城の戦いに出陣していた*信長のもとへ馳せ参じて対面すると、勇壮な風貌が気に入られて、その場で召し抱えられた上、限られた家臣のみに許されていた“永楽銭紋”を賜り、以後、仙石家は、代々この紋を家紋として使うことになる。木下藤吉郎(豊臣秀吉)の寄騎(与力)に配属され、秀吉にとっては初めてのそれなりの家の出の家来で、面倒見も良かったことから、寵愛され、馬廻衆として、各地を転戦、

織田信長入京1568＝16歳：

石山合戦始・1570＝18歳：

浅井・朝倉家の連合軍を破った_姉川の戦いで、先陣に立って突進、浅井方山崎新平を討取るなど大活躍、

長島一揆鎮圧1574＝22歳：

秀吉が長浜城の城主になると、秀吉の家臣で黄母衣衆の一員の野々村幸成の娘本陽院を正室に迎え、_近江国野洲郡1,000石を与えられて、早くも、一領主となり、
のちには、甲斐国の浪人の娘慶宗院を側室に迎え、合わせて、10男6女を儲ける。

安土楽市楽座1577＝25歳：

上杉謙信没・1578＝26歳：

秀吉が信長から命じられた_中国攻略に、従軍して戦功を挙げ、
三男忠政(のちの小諸藩2代藩主)が誕生。この年、信長を裏切った荒木村重が、居城の有岡城に立て籠り、説得に向かった秀吉の軍師黒田官兵衛が、そのまま拘束され、織田家中に官兵衛も裏切ったという噂が流れた際、黒田家の残党をかかまい、官兵衛が解放されるまで、面倒を見続けている。_4,000石を加増。

安土教会許可1579＝27歳：

茶臼山城を任せられ、赤松峠を越える播磨道の警護に当り、三木城包囲時には、秀吉が湯治に通湯の山街道や有馬温泉を統括する湯山奉行にも任じられている。

パリニャー謁見 1581＝29歳：

とくに、_淡路攻略戦では、信長より、四国の長宗我部元親を討つため、経路の確保を命じられた秀吉に従い、淡路国へ上陸、毛利家に荷担していた安宅家が守る岩屋城や由良城を次々と陥落し、秀吉が姫路城へ戻ったあとも、戦線を引き継ぎ、

本能寺の変・1582＝30歳：

本能寺の変で、信長が死去し、秀吉が、“中国大返し”して、山崎の戦いが始まると、淡路で明智光秀方に与した豪族菅達長らを討伐して、淡路を平定し、

賤ヶ岳の戦・1583＝31歳：

_その功で、淡路国5万石を与えられて、洲本城に入城、国持大名となり、豊臣家中で、確固たる地位を築く。秀吉が柴田勝家と対決した賤ヶ岳の戦いに際して、四国勢を抑えるよう命じられ、讃岐国の十河存保の求めに応じて、引田城に入城し、長宗我部元親と対陣、敗走するものの(引田の戦い)、洲本城に戻ると、四国征伐に向けて、淡路島と小豆島の守りを強化し、瀬戸内海の制海権を死守して、

豊臣秀吉閏白1585＝33歳：

2ヵ月足らずで_四国を制圧できた秀吉から、讃岐国13万石(うち2万石は十河存保領)を拝領するに至り、秀吉の家臣のなかでも、最も早く、屈指の大名となったが、

秀吉太政大臣1586＝34歳：

_九州征伐が始まると、先陣役として、四国勢の軍監に任命され、長宗我部元親、十河存保らの兵を率いて豊後国へ向かうが、もともと敵対して連中が統率できず、合流した大友氏の軍も士気に乏しく、秀吉から、豊臣本軍が到着するまで、持久戦へ徹するよう命じる書状を受け取るも、焦燥していたことからそれを無視、先陣のみで攻勢に出ようと、冬季に渡河する戸次川の戦いに出て失敗、存保・信親らは討死し、元親隊は戦いに参加する間もなく伊予国へ敗走、敗北に終わる。秀吉の逆鱗に触れて、讃岐国を召し上げられ、高野山追放になった。独断で会戦に望みただけでなく、敗走する軍を取りまとめる責務を果たさず、諸侯を差し置いて小倉城に引き退いた後も防戦せず、家臣団と共に、讃岐国へ退却して、“三国一の臆病者”というあだ名をつけられるなど、それまで築いた名望を一挙に失う。汚名返上の機会を窺い続けうち、

刀狩海賊取締1588＝36歳：

秀吉全国統一1590＝38歳：

*秀吉が、北条氏追討の小田原征伐の号令を全国へ発するや、即座に、美濃国で旧臣らを集めて参陣、秀吉に無断で、徳川家康陣に入るものの、敵をおびき寄せるべく奇抜な格好をし、次々と襲来する敵を、ことごとく討ち取り、随一の激戦地山中城攻めでは先陣を務め、小田原城攻めでも、抜群の武功を挙げ、その名声は、箱根の地名仙石原に残るといふ伝説になるほどで、戦後、秀吉に謁見を許されたばかりか、忠勇を賞されて、信濃國小諸に、旧領の半分に相当する5万石を与えられ、大名として返り咲いた。

文祿の役・・1592＝40歳：

ムツ島通交・1594＝42歳：

朝鮮出兵が始まると、名護屋城の築城工事で功績を挙げ、従五位下・越前守に叙任された。

伏見城の築城にも功績を挙げ、7,000石を加増。この年、天下の大泥棒石川五右衛門を捻じ伏せ、捕縛し、褒美として、秀吉から、五右衛門が盗もうとした大名物“千鳥の香炉”を拝領したという伝承もある。

慶長の役・・1597＝45歳：

豊臣秀吉没・1598＝46歳：

関ヶ原の戦・1600＝48歳：

この頃から、_領地経営に本腰を入れ、居城である小諸城の大改修に取り掛かり、

_秀吉が死去すると、小田原征伐の際に陣借りした恩義などから、徳川家康に近付き、
_会津征伐に参加し、関ヶ原の戦いでは、徳川秀忠に従軍、秀忠が決戦に遅参した際、身を挺してかばい続けて、家康の怒りを解いて、秀忠から感謝されるとともに、旧領を安堵され、

阿国歌舞伎始1603＝51歳：

_江戸幕府が開かれると、信濃小諸藩の初代藩主となり、街道の整備、荒廃した農村の復興などに着手、領民に重労働を強いて逃亡が相次ぐが、年貢の減額や農村の有力者を家臣に取り立てるなどして、信頼を回復。地場産業を発展させるため、蕎麦に着目、やがて江戸や京、大坂などの大都市へ蕎麦粉を輸送するほど生産力が上がり、領内の経済も活性化、小諸は、蕎麦の名産地としても知られるようになる。

江戸城完成・1606＝54歳：

家康駿府退隠1607＝55歳：

*秀忠が征夷大将軍に任ぜられると、江戸城内では準譜代大名として扱われ、秀忠付という名誉職まで賜り、参勤交代で江戸へ向かう際は、必ず幕府の上使が板橋宿まで出迎えに訪れ、本来禁じられている妻子の同伴まで許可、ここまで厚遇を受けた外様大名は、他にいないというほどになり、

・・・・・1608＝56歳：

島津琉球支配1609＝57歳：

山田長政渡航1611＝59歳：

秀忠が江戸の秀久邸を訪れて歓談している。

秀忠の將軍宣下御拝賀にも随行し、

御謁初めの際にも着座を許されている。_改修し続けてきた小諸城を近代城郭として完成させ、街道の伝馬制度や宿場街の整備など多様な治績も残し、領内整備もひと段落したところ、

大坂冬の陣・1614＝62歳：

*江戸から小諸へ帰る途中に発病し、武蔵国鴻巣で、没した。